

2022 年 4 月 25 日

報道関係各位

ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社

東京都港区港南 1-2-70

本資料はロシュ・ダイアグノスティックスの親会社である F.ホフマン・ラ・ロシュ社が 2022 年 4 月 25 日（スイス現地時間）に発表した英文プレスリリースを一部抜粋した翻訳版です。この資料の正式言語は英語であり、表現や内容については英語の原文が優先されます。（記述される製品には日本未発売の製品も含まれています）

原文は下記 URL よりご参照ください。

<https://www.roche.com/media/releases/med-cor-2022-04-25.htm>

*日本国内では、ダイアベティス・ケア事業（血糖測定関連事業）は、ロシュ DC ジャパン株式会社が担当しています。

*特に記載の無い限り、この書類における全ての成長率は恒常為替レート(CER)で計算されています。
(CER:2021 年の平均値)

2022 年 4 月 25 日 バーゼル発

ロシュグループ/診断薬事業部門 2022 年度第 1 四半期業績のお知らせ

- ロシュグループの売上は、恒常為替レートで 11%の成長、スイスフラン換算で 10%の成長
- 診断薬事業部門の売上は、基盤ビジネスの勢いと、COVID-19 検査の継続的な高い需要により 24%の成長。好調な第 1 四半期のあとは、COVID-19 関連検査では大幅な減少が見込まれている
- 診断薬事業部門の第 1 四半期ハイライト
SARS-CoV-2 オミクロン株に見られる変異を同定・識別する遺伝子検査ソリューションを発売

ロシュグループ CEO（最高経営責任者）のセヴェリン・シュヴァンは、グループの売上について次のように述べています。「予想していた通り、診断薬の基盤ビジネス、幅広い COVID-19 検査のポートフォリオ、そして新薬に対する高い需要とともに今年度のビジネスをスタートすることができました。特に、深刻な眼疾患および神経疾患における新たな有効データなど、製品パイプラインの開発において進展があったことを喜ばしく思います。」

2022 年の見通し

売上は、前年同期並みか一桁前半の成長を見込んでいます（恒常為替レート）。一株当たりのコア営業利益は、2021 年の自社株買戻しによる効果を含め、一桁前半から半ば（恒常為替レート）での成長を目指しています。またスイスフラン建て分配金をさらに増やすことを見込んでいます。

COVID-19 治療薬と診断薬の売上はおよそ 20 億スイスフラン減少して 50 億スイスフラン程度になり、バイオシミラーに対する今年度の売上損失は、およそ 25 億スイスフランになると予想しています。これらの影響を除けば、グループの売上は一桁台後半で成長する見込みです。

ロシュグループの業績

第 1 四半期におけるグループの売上は、11%増（スイスフラン換算で 10%増）の 164 億スイスフランとなりました。

診断薬事業部門の業績

診断薬事業部門は、24%の力強い成長により 53 億スイスフランの売上となりました。基盤ビジネスでは、心疾患検査が主に貢献し、特に免疫検査事業において好調な結果（+10%）を示しました。

ロシュの主力製品である COVID-19 検査のポートフォリオは、ポイント・オブ・ケア検査と PCR 検査の需要増により、引き続き売上の主要な牽引役となりました。このポートフォリオは、合計で 19 億スイスフラン（2021 年第 1 四半期は 12 億スイスフラン）となり、事業部門全体の売上成長に大きく貢献しました。

地域別では、北米（59%）とアジアパシフィック（34%）が牽引し、全地域で売上増となりました。中南米は 9%増、欧州・中東・アフリカ（EMEA）は 2%増の成長となりました。

診断薬事業部門：2022 年第 1 四半期の主なマイルストーン

3 月、ロシュと子会社である TIB Molbiol 社は、自社の遺伝子検査ソリューションが、懸念される SARS-CoV-2 のオミクロン株変異を同定・識別することを確認しました。迅速かつ正確に変異を特定することは、進行中の治療薬およびワクチンの研究開発に情報を提供するうえで、非常に重要です。これによって、病気の進行を止めたり、遅らせたりできる可能性があります。加えて、差別化された検査は、公衆衛生の専門家が必要な対策を計画し実行するのを助けます。

また 3 月には、デジタルパソロジー・ソリューションを用いた個別化医療を進めるため、プリストル マイヤーズ スクイブとの協業を発表しました。この協業は、人工知能（AI）技術とデジタルパソロジー・アプリケーションが、患者のための治療法開発に役割を果たす最初の例の一つです。

診断薬事業部門の売上

売上	CHF millions 単位：100万スイスフラン		As % of sales 売上に占める割合(%)		% change 成長率(%)	
	2022	2021	2022	2021	CER	スイスフランベース
2022年1月-3月						
診断薬事業部門	5,286	4,330	100.0	100.0	24	22
事業領域：						
コア・ラボ	1,896	1,786	35.9	41.3	8	6
ポイント・オブ・ケア	1,466	806	27.7	18.6	84	82
モレキュラー・ラボ	1,189	996	22.5	23.0	21	19
ダイアベティス・ケア	417	460	7.9	10.6	-7	-9
パソロジー・ラボ	318	282	6.0	6.5	14	13
地域：						
ヨーロッパ、中東及びアフリカ(EMEA)	1,902	1,967	35.9	45.5	2	-3
北米	1,705	1,051	32.2	24.2	59	62
アジア・パシフィック	1,395	1,045	26.5	24.1	34	33
中南米	284	267	5.4	6.2	9	6

コア・ラボ

主に中央検査室向けに、免疫学的検査、生化学検査、カスタムバイオテックの領域で診断ソリューションを提供します。心疾患検査が主に貢献した免疫検査事業によって、売上は8%増加しました。全地域、特にアジア・パシフィックとEMEAを中心に、売上は増加しました。アメリカのコア・ラボ事業（カスタムバイオテックを除く）は10%の成長となりました。

ポイント・オブ・ケア

SARS-CoV-2 迅速抗原検査、血液ガスおよび電解質検査を含む、救急救命室や医療現場、または患者に対して直接提供する診断ソリューションに焦点を当てています。引き続き大きな売上成長を遂げ、84%の成長となりました。SARS-CoV-2 迅速抗原検査が主な成長要因となり、特に北米で顕著となりました。

モレキュラー・ラボ

主に遺伝子検査を行う検査室向けに、病原体の検出とモニタリング、ドナースクリーニング、セクシャルヘルス、ゲノミクスなどの診断ソリューションを提供します。売上は、ウイルス関連検査事業が牽引し、EMEAとアジア・パシフィックを中心に、21%の成長となりました。

ダイアベティス・ケア

糖尿病患者と医療従事者向けに統合化とパーソナル化された糖尿病管理に焦点を当てています。持続血糖測定システムへの切り替えによる、血糖自己測定器市場の継続的な縮小により、売上は7%の減少となりました。これは、新興国での需要の高まりにより部分的に相殺されました。2021年第1四半期の訴訟和解金によるベース効果を除くと、売上は1%増加しました。

パソロジー・ラボ

主に病理検査室向けに、組織生検やコンパニオン診断のための診断ソリューションを提供しています。これらの標的診断は、一人ひとりの患者さんに合った治療法の決定をサポートします。売上は、特に北米とアジア・パシフィックにより、14%成長しました。主にアドバンスド・ステイニング事業の成長によるものです。

【事業領域説明】

コア・ラボ：免疫・生化学検査、血液凝固検査

ポイント・オブ・ケア：臨床現場即時検査

モレキュラー・ラボ：遺伝子検査用試薬・機器

ダイアベティス・ケア：血糖測定関連事業

パソロジー・ラボ：病理学的検査用試薬・機器

※ポイント・オブ・ケアの売上には、Liat ビジネス（モレキュラー・POC）の売上が、またコア・ラボの売上には、ライフサイエンスアライアンスの売が含まれます。どちらも従来モレキュラー・ラボの一部として表示されていました。2021年度との比較情報は適宜更新されています。

日本国内お問合わせ先：

ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社

広報部門 Email: tokyo.pr@roche.com